

氷川小学校 学力向上のための授業改善推進プラン（国語）

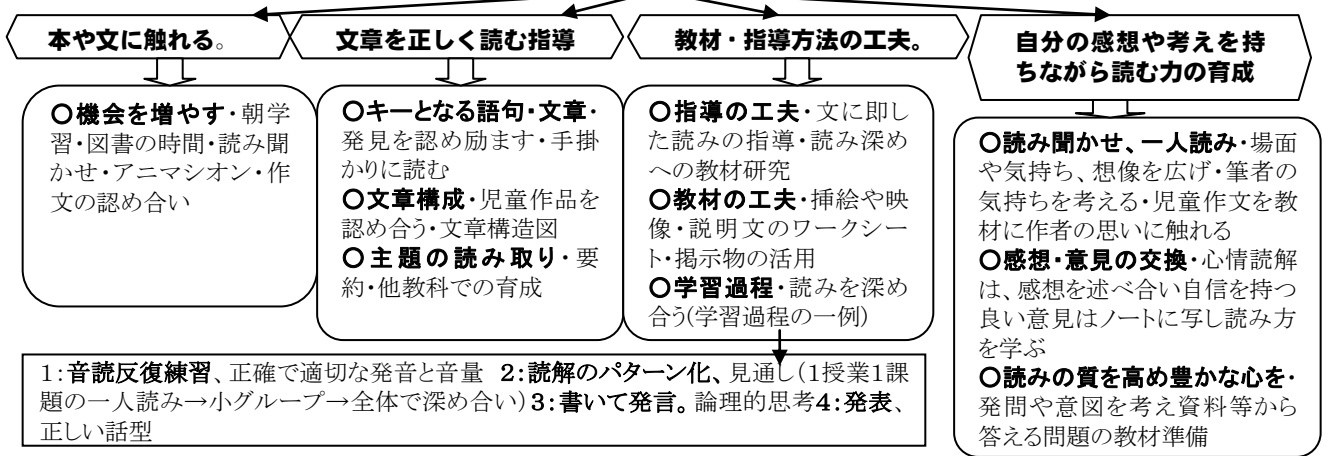
理解力・表現力の向上を目指し、言語の役割の認識を深め、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことの活動や言語生活を更に充実させる。

◎関心・意欲

国語全般への関心・意欲が高く学習課題に進んで取り組む児童が多い。特に読書や辞書等で調べる習慣が身につけている。一方で意欲的に取り組むものと苦手意識が先に立ってしまうもの差が大きい。

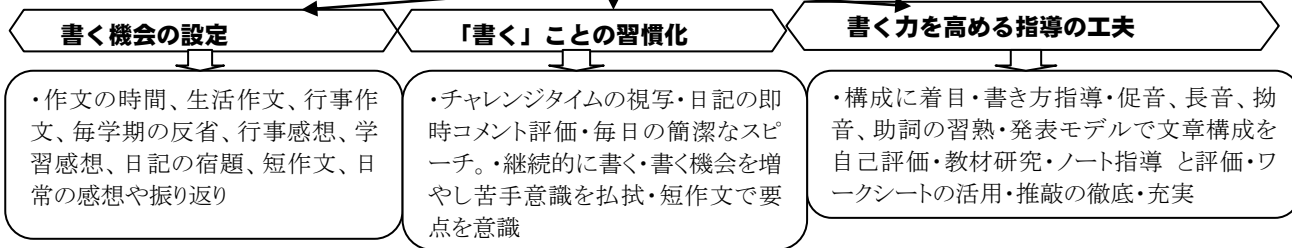
◎読む力

音読の声は出て、言葉の理解や文に即した心情の読み取りなど、多くの児童の読む力も向上している。しかし個人差が大きく、内容理解や感想を苦手としている児童が目立つ。



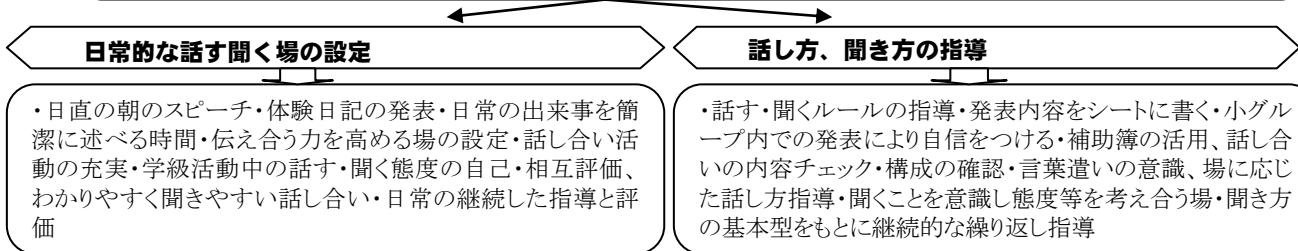
◎書く力

反復練習の継続で苦手意識や抵抗感が薄れ、書く量も増え、順序や心の動きを意識しながら書ける子が増えてきた。表現力の豊かな児童がいるが、まだ内容が散漫で要旨がまとまらないものも多い。正しい書き方で順を追って書くことや中心を明確にして整理して書くこと、論理的な整理・検討や条件に沿っての的確な記述も練習が足りない。



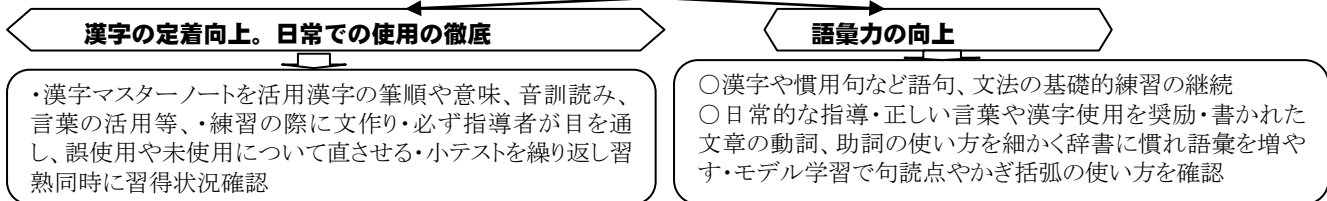
◎話す聞く

言葉で考えや意見を表現することが好きで積極的に話したり聞いたりできる。一方で発表を苦手と感じる児童もいて発言を積極的に行う児童と、そうでない児童の二極化がある。意図に応じて話の構成を考え要点を短く話すことが苦手な児童はまだ多い。集中して聞く姿勢ができていなかったり考えながら聞き取ることが苦手な児童もいる。



◎言語

・低学年はひらがなや長音・拗音や促音、助詞など、概ね読んだり書いたりすることができるが、定着が不十分な児童がいる。学年が進むにつれ漢字の定着や語彙力の個人差が広がり、助詞の使い方や句読点、作文のかぎ括弧などの書き方にも支援が必要となる。高学年に進むと漢字や難語句への関心は高くおおむね辞書等で調べる習慣が身につけているが、漢字や語句、語彙・文法などの定着度下がり、自信を持ってない児童が増える。



◎評価方法の工夫

○評価規準の活用と改善各単元や授業ごとに細かく評価規準を設定・ワークシートやプリント、テストによる評価
○日常的な評価・授業中の発言や発表ノート補助簿他教科のノートや発表、話し合いなども評価の対象
○児童による自己評価、相互評価の設定とノートやワークシート、振り返り・自己評価カード等方法の工夫とアドバイス・相互評価の発表の場を設け互いの良い点を認め合う(発表、聞き方、文章について)

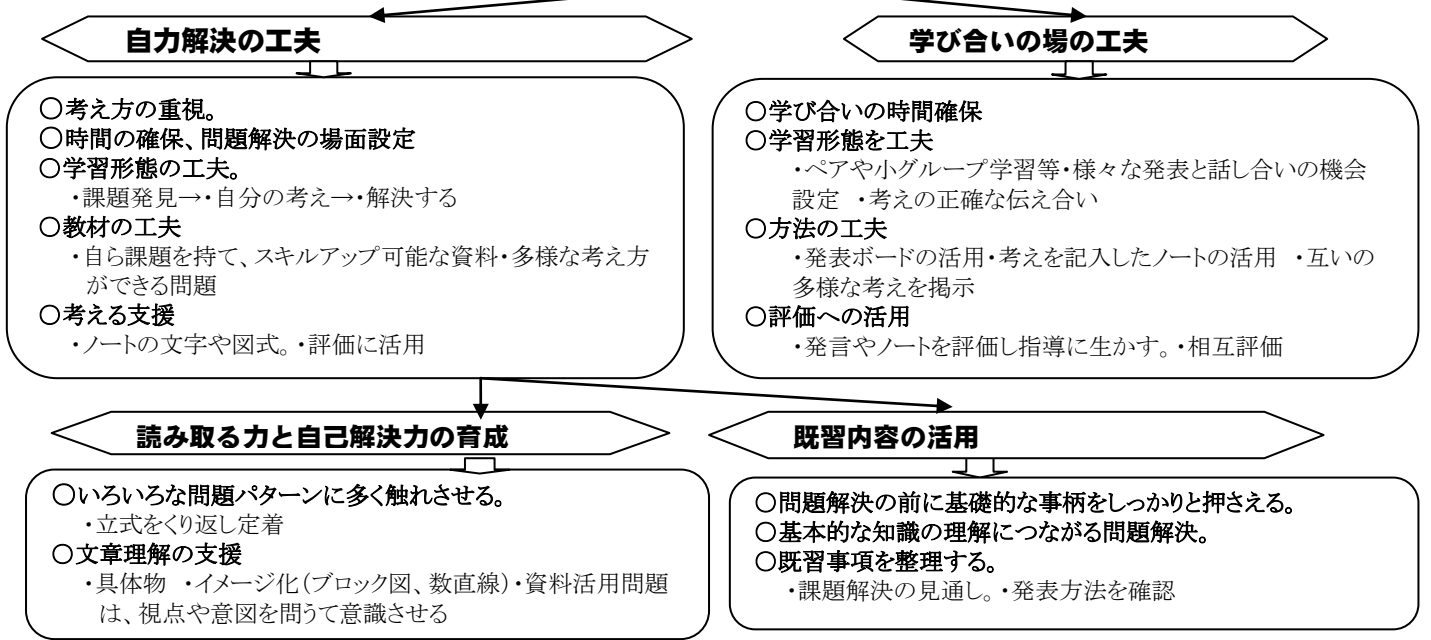
学力向上のための授業改善推進プラン（算数）

関心・意欲・態度

一般的に関心・意欲が高く、考えを進んで発表するなど積極的。真面目に最後までしっかり学習に取り組む。宿題等の提出も確実な学年が多い。一方で個人差に応じた個別の支援も必要。

数学的な考え方

低学年では難しさもあるが、学年が進むと考えを書いたり説明し合ったりして多様な考え方ができる子が多い。しかし、全体的には文章題や応用的な問題は難しい。自信が持てず一度書いた考えを消したり、発表する子の固定化等の実態がある。意見を交すことが苦手な子もまだ多い。特に文章題については、全学年にイメージ化や読み取り、演算決定や立式の力が足りない児童がいる。



数量や図形についての知識・理解・表現・処理

図形も含め基礎的内容がほぼ理解でき、基本的な計算力は定着している。特に中学年までは自信も持っているが、個々の差があり課題が終わらず宿題となる場合もある。学年が進むにつれ学習内容や計算方法の理解度、速度、習熟度の個人差は大きくなり、個別の支援を必要とする子も増える。内容を見ると、たし算や筆算のような形式的な処理は、おおむね理解できているが、応用は難しい。分度器で角度を測り描くことはできているが、定規で線を引く等の作業や計算が雑になりがちで、学年が進むと小数点や約分忘れ等の単純なミスが目立つ。ひき算の理解、時刻と時間の習熟、単位換算や計算などが苦手な子がいる。

